

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>京都府立盲学校創立 150 周年に向けて、時代のニーズに応じた学校づくりを当面 5 年計画で目指す。（5 年目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な教育環境を基盤とした視覚障害教育の充実 ・幼稚園から高等部専攻科までの専門的な教育環境の整備 ・インクルーシブ教育システムの構築に向けた教育改革 ・共生社会の実現を目指した地域・関係諸機関との連携再構築 ・重要文化財に指定された「京都盲啞院関係資料」の管理・保存と活用 ・京都府立聾学校と連携した 150 周年記念資料集の編纂 	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを積極的に活用することで、日々の教育活動や緊急時の連絡等をタイムリーに発信することができた。 ・関係分掌の連携により、自立活動を推進するための研究研修体制の整備が進んだ。 ・国家試験（あはき）や大学入学試験対策、受験時の合理的配慮に関する大学との丁寧な調整等に努め、卒業生の希望進路を実現することができた。 ・文化庁・文化財保護課の指導のもと、重文を始めとする歴史資料の整備を計画的に進めるとともに、資料を活用した授業や交流学习に取り組むことができた。 ・地域支援において、ICT機器を活用した支援を発展させることができた。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育領域の免許取得に向けた取組を継続し、専門性の向上に努める。 ・個別の教育支援計画の作成をとおして学校と家庭が子どもの指導・支援目標を共有し、協力して教育を進める体制づくりを推進する。 ・視覚支援センターの支援体制を学校全体でサポートし、様々なニーズに対応できるよう地域支援力を一層向上させる。 ・新学習指導要領の本格実施に向け、「対話的な学び」を軸に授業改善に取り組む。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 視覚障害教育の専門性と指導力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・免許（視覚障害領域）取得の推進 ・複数教員による丁寧なアセスメントと指導・支援内容の検討 2 学部間連携を基本とした教育環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導における小中連携強化と生涯に繋がる基礎学力の育成 ・重複障害教育における中高連携強化と集団による指導と教育の連続性を重視した教育活動の充実 ・学部との連携による学習習慣の確立（寄宿舎） 3 職業自立を目指し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・職業教育に関する検討の継続 ・大学進学における進路指導及び学力向上の取組の充実（高等部普通科・専攻科普通科） 4 ICT教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末等 ICT 機器や視覚支援機器、点字使用者の情報機器等の活用力の向上と生涯に渡る学習基盤づくり 5 今後の幼児児童生徒数の推移を見据えた将来構想の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度以降の新たな5年、10年を見据えた本校の機能強化策、役割についての検討 ・府内在住の視覚障害幼児児童生徒、並びに保護者のニーズの把握と校内外を問わず支援できる校内体制の構築 6 安心・安全な教育環境の補償 <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般における安全な教育環境に係る自己点検の徹底 ・様々な感染症の拡大予防策の徹底

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動全般	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の専門性と指導力の向上 ・児童生徒の教育的ニーズの把握、教育内容の明確化と指導方法の工夫 ・学びの連続性を重視した小中高連携 ・職業自立を目指し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実 	<p>【幼小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健部や防災対策会議等と連携を取りながら、感染症の対策や防災意識の向上を含めた安心安全な教育環境を整えるよう努める。 ・研究研修部と連携し、全校の授業公開及び研究授業をとおして、授業改善を行うとともに、視覚障害教育の専門性を高める。 ・新学習指導要領を踏まえた個別の教育支援計画を作成し、児童の教育的ニーズを把握するとともに、指導内容について保護者との共通理解を図り、しっかりと連携をとる。 <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の専門性に基づくアセスメントを全教員で共有し、新学習指導要領に沿った指導計画を立て、研究を行う。 ・ICT教育を推進するため、個々に対応した学習方法について検討し、実施する。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を基に、家庭や関係機関と連携を深め、生徒一人一人の進路希望や実態を踏まえた適切な支援を実施する。 ・大学進学や福祉就労等を希望する生徒、あはき国家試験合格を目指す生徒に対し、様々な学習機会を確保し、十分な力を着実に身に付けさせる。 <p>【寄宿舎部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活をとおして、生活リズムを整え、基本的生活習慣の確立及び感染症予防を徹底するなど、健康の維持増進を図る。 ・各学部との連携のもと、自習時間を確保し、生徒の学習意欲が育つように、個々に応じた支援を行う。 	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な教育環境を常に意識し、日々の授業や行事を行った。また、感染症や防災についての児童への指導を日常的に行い、教室等の消毒などしっかりと行った。 ・研究授業や公開授業について研究研修部と連携を行い、全校的な取組のなかで各授業担当者がフィードバックを踏まえて授業改善を行うことができた。 ・新学習指導要領を踏まえて個別の教育支援計画を作成し、各児童の教育的ニーズをしっかりと把握し、指導を行った。また、学期末に個別懇談を設定し、保護者への丁寧な説明を行い、その連携を図った。 ・新学習指導要領に沿った学習方法を検討し、生徒一人一人に応じた学習支援を行うことができた。 ・ICT教育を推進するために、タブレット端末を使った学習教材の提示やeラーニング等の学習方法について実践を試みる事ができた。 ・生徒との面談や保護者との懇談を適宜行い、家庭との連携を持ちつつ、生徒一人一人の実態を踏まえた適切な支援を行った。 ・様々な学習機会の確保に努めた。関係機関との連携により、施設見学や体験実習及び職場実習、普通科・音楽科や理療科の出前授業などを実施した。進路指導部と担任等が連携し、個々の生徒が希望する大学等への進学、福祉就労、あはき国家試験合格に向けた補習の実施などに取り組んだ。 ・体調を崩す舎生はいたが、学校医に助言を受けつつ、感染症予防にも努めながら、全体として健康の維持が図れた。 ・指導者の働きかけや舎生同士の声かけにより、自主的、計画的に学習に向かう環境を整えることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援をチームで取り組むことにより、地域支援力の向上を図る。 ・視覚障害教育に関わる情報を積極的に提供し、理解啓発を促す。 	<p>【視覚支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部教員が教育相談にかかわり、ケースに応じて高い専門性を発揮した支援を行う。 ・関係機関との連携強化や地域の学校における視覚障害への理解教育の推進、ホームページによる教育相談活動の発信を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員に教育相談に関わるアンケートを実施し、個々の教員の専門性が地域で学ぶ幼児児童生徒への支援につながる教育相談のケースを増やすことができた。 ・ホームページの一新、支援内容を焦点化したパンフレットの作成等、活動内容を積極的に発信することで理解啓発が深まった。また、医療・福祉機関との連携の機会を増やすことで更なる連携強化を図ることができた。 ・早期の連携を可能とするために、関係機関への訪問による啓発活動、ホームページの定期的な更新による情報発信が課題である。

組 織 運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・スリム化と効率的な組織運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議については、必要に応じての開催とする。 ・新たに代表部長会議を新設し、本校の教育活動における諸課題について、各分掌業務の進捗状況や課題等を定期的に把握し、課題については、スピード感を持って対応する。 ・将来構想会議を継続し、本校の機能強化策、果たすべき役割について検討する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・代表部長会議、運営会議をととして、各分掌業務の進捗状況や課題を共有すると共に、会議のスリム化と学校運営の円滑化を図った。また、全校に関わる内容について、3名の総括主事が各分掌担当として調整を図ることとした。 ・本校の将来構想について、骨格となる基本方針を作成し、五つの課題ごとに作業チームを立ち上げ、その方策について協議を重ねた。協議結果を次年度の学校運営の中で具体化する必要がある。
研 究 研 修	<ul style="list-style-type: none"> ・共通研究テーマ「社会生活を見据えた指導～対話的な学びを支える授業改善の視点」に即した校内の研究・研修内容の充実 ・専門的かつ実践的な知識と技能の共有化 ・授業力、実践力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通研究テーマを踏まえ、各学部における研究の具体的内容に基づく授業改善、研究活動を推進する。 ・「対話的な学び」を実現するために、各学部で行う授業研究を通して、指導者が考慮すべき点について検討する。 ・自立活動推進部、校内各組織との連携により、基本研修や専門研修等の充実を図る。 ・全校授業公開、研究授業の実施と実践事例の作成、共有、活用を行う。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部の研究授業の事後研究会では、研究テーマをもとに協議を行うことができた。 ・各学部の研究授業を踏まえ、①主体性と②環境面という授業改善の視点について全校研究会で確認することができた。 ・自立活動推進部と連携し、基本研修・専門研修を実施できた。 ・今までの実践事例を校内ネットワーク上で閲覧できる仕組みを作ることができた。
生 徒 指 導 ・ 安 全 教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・学部及び寄宿舎との連携強化 ・問題事象等に対して、早期発見と組織的かつ計画的な対応 ・児童生徒の安全・防犯・感染症予防に関する意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・事案の状況により、必要に応じて、全校生徒指導部会を実施する。 ・「いじめ防止基本方針」に基づいた、幼児児童生徒の発達段階を踏まえた、きめ細やかな指導を推進する。 ・家庭・地域社会・関係諸機関と連携する。 ・未然防止を第一に、早期発見、早期解消へ至る一連の対応を徹底する。 ・児童生徒に安定した学校生活を送るために必要なルールやマナーを徹底させ、校内安全点検を実施する。 ・各校地の特性を踏まえた避難訓練等を実施する。 ・児童生徒へ感染症予防対策に関する理解を促し、日常的な衛生指導を推進する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・問題事象の未然防止のために、学部ごとに集会や日々の指導において発達段階に応じた呼びかけ等を行った。 ・年2回のいじめ調査を通じて、実態を把握し、小中高等部間の情報共有を図るとともに寄宿舎との連携を図った。 ・児童生徒の指導において、日々担任が窓口になり、家庭との連携を図った。また、地域の警察や消防署と相談を密に行った。 ・学校安全点検を実施し、学校保健会議で校内の環境情報を共有するとともに、よりよい改善に向けて取り組んだ。 ・校内において誰もが安全に過ごせるようにルールやマナーを徹底するよう発達段階に応じた指導を行った。 ・各校地避難訓練を行った。また、消防署と連携し、障害の状況を踏まえた避難経路の確認を行うことができた。更に、消火器の使用方法について周知することができた。 ・各校地の児童集会、生徒集会や日々の指導において、感染症予防についての理解促進と意識向上を図った。また、毎日、教職員、スクールサポーターで、校内施設・設備の消毒作業を行った。
I C T 教 育 ・ 情 報 管 理	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用した積極的な情報発信（地域支援、教育活動、資料室資料紹介等）と情報セキュリティの強化 ・ICT教育及び環境整備等の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを適切に管理し、最新情報を適宜更新するとともに緊急連絡等を発信する。 ・ICT教育推進のための基盤を整備するとともに、情報機器等の活用について研修する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを適切に管理し、コロナ関連の最新情報を適宜更新することができた。また、コロナ禍の状況で学校緊急メール等を活用できた ・GIGAスクール構想による整備が行われ、オンライン会議や研修会等での情報機器等の活用を進めることができた。

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な教育環境の徹底と、コロナ禍の状況を前向きにとらえた教育活動を一層推進すること。 ・学部間連携を進め、生活集団や学習集団を確保することで、社会自立を目指した新たな取組を実施すること。 ・視覚支援センターの取組を充実させると共に、早期教育相談等では視覚障害児療育施設等との連携を一層深めて行くこと。 ・関係機関と連携を深め、児童生徒のキャリア教育を推進すること。 ・進学や就労後の支援が円滑に引き継がれ、継続されること。
----------------------------------	---

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①一層進む少人数化への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・学部の再編による生活集団・学習集団確保と、新たな教育活動の推進 ・ICTを活用した共同学習の推進 ②視覚支援センターの機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ・各種相談体制の充実 ・地域支援の取組に関する情報発信のさらなる充実 ・関係諸機関との連携強化 ・土曜日を活用した地域支援の取組等 ③卒業後の希望進路（大学等への進学、就労等）実現に向けた指導・支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達を意識した体験学習、実習等の充実 ・進学、就労後の支援体制の充実 ・社会のニーズを踏まえた指導内容の工夫と職場開拓 ・盲学校卒業後の進学・就労等のモデルケースの整理
--------------------------------	---